

菊川市のヤングケアラーの状況

織部 ひとみ（みどり21）



令和4年4月に策定された「第2次菊川市総合計画第6次実行計画」では、菊川市の将来像「みどりときめき たしかな未来菊川市」の基本目標1に「子どもがいきいき育つまち」とある。いつの時代でも子どもは未来の宝であるが、核家族化や高齢化、独り親家庭の増加といった家族構成の変化も背景にあり、18歳未満の子ども達が家族の介護や世話など日常的に行うヤングケアラーの菊川市の実態について質問した。

【Q】菊川市の現状把握や課題認識を把握するため、ヤングケアラーの実態調査は行ったか。

【A】菊川市独自での調査は行っていないが、静岡県で昨年度末に県内の小学生、中学生、高校生を対象に実態調査を行い、調査結果を6月に公表した。ヤングケアラーは家庭内のプライベートな問題であり、学校の先生方と連携し、支援が必要な子どもの把握に努めている。

【Q】支援体制としてヤングケアラー向けコーディネーターの設置や相談窓口の設置は。

【A】ヤングケアラー向けコーディネーターは配置していないが、社会福祉士、精神保健福祉士を設置し、家庭や学校からの相談を受けている。

【Q】ヤングケアラーの社会的認知度の向上への啓発体制は。

【A】子ども自身がヤングケアラーを理解し、自ら気づき相談できるようポスターの掲示やリーフレットの配布等、関係機関と広く連携し啓発を行っていく。



水田の有効利用に向けて

山下 修（みどり21）



【Q】菊川市における水稲の作付け状況はどうか。

【A】平成22年度の調査結果では、田の総面積が1120ヘクタールで水田は810ヘクタール、利用率は72.3%、生産量は4320トン。平成31年度は、1070ヘクタール、水田は727ヘクタール、67.9%、生産量3900トンであり、利用率、生産量ともに減少している。

【Q】スマート農業に向けたトレーサビリティシステムとは。

【A】ICTを活用してパイプラインからの水の管理や圃場にカメラを設置し、作物の生育状況や異常を把握し、スマートフォンやタブレットに送信するシステムである。さらに労力を減らすことのできる取り組みを普及・推進していく。

【Q】水田を利用した複合経営や裏作物の耕作状況はどうか。

【A】枝豆やトウモロコシ、レタス等を栽培している。冬物レタスの栽培は、農業者・法人を合わせて

平成30年産で105ヘクタール、令和2年産においては139ヘクタール、生産量3960トンと増加している。

【Q】複合経営や裏作経営に必要な水田の排水性向上の促進は。

【A】池村地区で地下水位を制御できる暗渠排水フォアスを県下で初めて導入した実績がある。本年度から着手する川西地区では、暗渠排水や用水のパイプライン化を予定しており、他地区でも実施に向けて話し合いをしている。



乾電池を電源としたパイプラインからの自動給水